

平成31年(2019年)3月の Санктペテルブルクにおける
文楽公演及びワークショップ(説明書2(2))の実施に関する参考情報

一例として、出演者が「富田人形共遊団」となる場合には、主に以下のような条件を確保することが期待されます。ただし、これらは今後の調整により、変更があり得ます。

1 実施内容等

(1) 大学等におけるワークショップ

- 大学等において、学生や若者向けのワークショップを実施する。体験も可能。

(2) 公演前または公演後のワークショップ

- 公演前にホワイエや別室で、または公演後に舞台上にて、人形の構造や動かし方、所作等についてのレクチャー・ワークショップを実施する。公演前にホワイエや別室で実施する場合、50～60名程度を対象とする。

(3) 公演

- 想定される公演内容：

- ・三番叟(約15分)(出演：人形遣い6名(人形2体))*音源使用
- ・傾城阿波の鳴門(約30分)(出演：人形遣い6名(人形2体)，浄瑠璃語り1名，三味線奏者1名)
- ・伊達娘恋の緋鹿子(約20分)(出演：人形遣い3名(人形1体)，浄瑠璃語り1名，三味線奏者1名)

*間に舞台転換が必要。

2 会場

- 大学等(学生または一般向けのワークショップ)
- ボリショイ・ドラマ劇場等(公演及びその前後のワークショップ。ボリショイ・ドラマ劇場によると、借料は約50万ルーブル。)

3 ロジスティックス

(1) 出演関係

- 日本から派遣することになるのは、人形遣い、浄瑠璃語り、三味線奏者等で計12名。出演料は不要(食費等は必要)。

(2) 移動

- 滋賀県長浜町発にて、関西空港経由等適当なフライトを手配する。
- 航空券は全員エコノミークラス。

(3) 公演関係

- 90分程度のリハーサル時間を確保する。
- 舞台上には返しのモニター(スピーカー)が必要。
- 浄瑠璃語りと三味線弾きが座るため、高さ50センチ×縦90センチ×横90センチ以上の台を2組用意する(台を重ねてもよい)。
- 大道具は、「傾城阿波の鳴門」で門口、「伊達娘恋の緋鹿子」で火の見櫓を使用。その他、舞台の幅いっぱい、人形遣いの足元を隠す「手すり」を用意する。別添の図面を元に作成しておくことを想定しているが、日本から既存の組立て式の道具を携行することも可能。
- 床本を翻訳し、露語字幕をスクリーンにて写す等により、ロシア人観客にも理解しやすいよう工夫する。

(4) ワークショップ関係

- 高さ50センチ程度の長机及びワイヤレスマイクが必要。
- 体験も可能だが、その場合できる限り広いスペースを確保する。

(5) 携行品リスト

- 預け荷物(20キログラムのスーツケース5つ程度)
 - ・人形6体
 - ・背景幕3枚
 - ・舞台下駄4足
 - ・小道具(菅笠、杖、鈴、ドラ、半鐘、撞木、手紙、裁縫箱、神鈴(2)、舞扇(2)見台、座布団(2))
- 手荷物
 - ・カシラ6個
 - ・三味線2棹

(了)